

との聯絡を意としない譯では御座いませぬ幼稚園は幼稚園としての相當の教育をさへして居りますれば兒童はおのづから小學校教育を受くに最もよきものになると信じて居ります故、何等形式上の聯絡方法を取りませんのです。只身體能力の普通以下なる幼兒に對しては特別の注意を加へ、其足らざるを補ひ小學校入學後の困難を尠からしめる

## 幼稚園の舊い圖

様いたして居ります。

### 【第三項】

兩三年前迄は此期に於て机の排べ方を取り替へ號令などを用ひて多少小學校類似のことをいたしました事も御座いましたが、今日にては全く何等の準備的のこともせず、幼稚園最年長組としての普通教育を施すだけで御座います。

昔「色鉛筆」や「縁の家」で、時々讀者諸君に迷惑をかけた私の子供は、其後二年の長い間、御茶の水の幼稚園に御世話をして戴く事に成りました。丁度其頃から私の所謂慈愛文學の源泉は枯竭して仕舞つて、どうしてもあの當時のやうな暢氣な記事を書く直接の興奮が無くなりました。

若　　き　　父

それは一つは世話の焼ける自分の子供が、非常に先生方に御迷惑をかけて居る爲めに、親の感情を主として偏觀的の所謂「好い氣の記録」を作る事に少なからず氣が引けると云ふ一種の悠々たる自覺が湧き出したにも依りまじやうが、又一つは日本の現時の教化行政に就て自分達の分擔して居る時代的責任と云ふものから見て、自分で一種の緘

口條令を作り出して、此の自繩自縛的の狀態に自分の思想を陥れて居るからでもありませんやう。

## 二

子供を中心として家庭内の出來事を、家庭の主人公の一人が自分で愉快に書く時は、統一した意識若くは一つの纏まつた自我のみが働いて居りますから、殆ど意識的に背景と云ふものの壓迫を感じません。即ち時代とか制度とか社會生活とかの表現としての子供の生活を見て、之を批判し之れが前後策を考へるよりも、自分一個の小さい自具自足的の出來事として之を見えを記録する事に依つて、己の感興を遣り自己の興奮したる慈父的感情を客觀化し固定させる快を味ひます。

## 三

然るに幼稚園に於ける子供と云ふ標題は、云ふまでもなく家庭のみに於ける子供とは非常に違つた側面を有して居ります。學說・制度・設備・保育の方法態度、及び是等の時代的變遷を一つの問題と

して立てるならば、時代の文化の所産又は集合精神の傳統としての斯の如き事實の存在を考へますと不可抗的の大なる威力を以て此の事實は我々を攝取し包擁しつゝある事を感じせしめます。

制度や方法に對する我々の個人的の革命的感激や、學說や設備に對する我々の個人的の論理的感情は如何に内面的に強烈であつても、それは「こ」とば」の上の自由である丈け、「行ひ」の有する權威の前には、實力即ち現實化可能性の少ないものと感せられる事が多いのであります。

## 四

かう云ふ學說や制度と云ふものの威力は、恐らくは文明の進むと共に益々其容積を擴げ其程度を増すに違ひありません。勿論一方では改正も施され適應も試みられますしやうけれども、併し之等のものに固有な因襲的な惰力も亦決して之に劣らない働をするに違ひありません。いくら個人主義とか天才主義とか貴族主義とかの論客が、反撥的

掉尾的の大活動をしたにもせよ、此の普遍化の大勢を逆倒するなど、は思ひも寄らぬ事であります。かゝる論客は自己の卓拔なる意見が既に過去の時代の思想や施設の中に抱擁されて居た事をどうして正直に心付かなかつたかと私は怪しみます。たとひ今或る思想上の感激なり或る實行上の計畫なりを有つた偉人が表はれたとしても、恐らくは此の人の有する獨創性は前代前々代の學說や制度の完成者に或る形式に於て存在して居つた場合が必ず多きを占めて居ります。

社會的に見れば發明は要するに一つの改良に過ぎません。又大局から見れば此の進歩は其の進歩か退歩かは決して速斷する事が出来ません。恐らくは現在の有らゆる新しい教育上の學說や施設など、云ふものは、古い酒を盛つた酒壺の底の沈滓せみづに新しい衣を着せ、金紙を被せてガラス窓に并べたチコレートクリームに過ぎないのではありますまいか。

## 五

今私の子供が一般の子供の中に入つて、此の根強い制度の内に育成されて居ります。私は常に「園兒としてこの坊や」と云ふ事を考へますと、私の眼には此の幼稚園の始まつて以來の子供の全體の姿が、無際涯の連續を爲して浮んで來ます。勿論其中に私の子供も交つて遊んで居るのですけれども、併し特に私の坊やに就いての個人的興味を起すよりは、私は寧ろ此の連續したる園兒の全群が團集して如何に取扱はれて來たかと云ふ其經路に重味を置きたい傾向を有ちます。

それ故私は幼稚園時代の坊やに就て何か書かうとしても、坊やの姿は全群の園兒の中に紛れて見えなくなります。更に少時しばらくする間に、わや／＼ち／＼した兒群の姿も亦薄くぼけて仕舞つて、却つて、其背景の校舎や校庭や教室や設備などの移り變りがはつきりと現はれ、更に其背後に教育法規や制度の制定者の明治初期の若い姿や明治後期

の重ね寫眞のやうなぼんやりした姿が見えて來ま  
す。

## 六

私ばかり自分の心持を少し書いて見たいと  
豫て考へて居りました。先日ふと其動機を得まし



た。それは茲に掲げた御茶の水幼稚園の圖を手に入れた事です。此の珍らしい圖は明治十四年三月柳原文盛堂出版、安井乙熊編「明治新刻畫入東京名所案内」と云ふ乾坤二冊もの銅版帙入の豆本にあつたのです。

私が此の圖に依て明治十四年頃の御茶の水の幼稚園の光景を眺めて居る時に、丁度一月の「婦人と子ども」が配達されて來ました。そして第八頁の「昔の幼兒」よりと云ふ興味のある記事が、私の心を惹き付けました。此の昔の幼兒は今恐らくは四十歳位の御方でしやう。そして此の紳士が入園されたのは即ち明治十四年であると記してあるではありませんか。私は此の記事と、此の銅版繪と、私の生れた明治十四年と、現在此の園に御世話に成つて居る私の坊やと、とりとりに考へて、「明治十四年時代」と云ふものをいろいろに描いて見ました。

## 七

若し明治の文化史と云ふものを編するとなし  
たならば、恐らくは明治五年の交、即ち種々の法  
規や制度を始めて樹立した時を以て、日本人とし  
ての偉大なる新生活の始期としなければなりません  
まい。

之に次ぐ重大なる區劃點は、云ふまでもなく二十七八年の日清戦争と、三十七八年の日露戦争とであります。そして五年と二十七年との間を更に小分すれば、二十二年の憲法發布が確かに有力なる區劃點となるに相違ありません。

そして文化發達の上から見て最も興味ある時期は、五年から二十二年までの間、殊に其前半期であります。此の間に出來たいろ／＼の著述譯述や、頻々と變改せられた法規や制度などは、新日本の青年政治家青年學者の放膽的試嘗時代に充滿したる果斷な剛健な精神をよく具體化して居ります。

此の時代の制度は、決して後世のやうな因襲的に練り上げられた重ね寫眞のやうな集合精神の所産ではありませんでした。寧ろ英雄傳の一頁として見るべきもので、年の若い大膽な或個人の生得的稟賦の傾向が最も露骨に其姿を現はして居たのであります。私は此の意味に於て明治初期の施設

を觀るに大なる興味を感じます。そして此の幼稚園の圖に就ても、幾分かこの氣分を認める事が出来る事を悦ぶと共に三十餘年を隔てた「昔の幼兒」と「私自身の坊や」との對立にも非常なる感想を催します。

## 八

私は此の圖を説明した「東京名所案内」の編者の全文を掲げませう。

幼稚園 神田宮本町に在り此園は六歳未満の幼童稚女の小學に入る前に知慧を發せんとて保育せらるゝ園にて當時其生徒數百名ありと聞く攝理は議官從四位福羽美靜君なり

### 幼稚園

小林 秀 眞

二葉より教への道に養はれ

ことなる花の實をや結ばん

### 同

久間 棗 翁

二葉より生し立てんと添竹の

直きにならふ大和撫子

法規の完成制度の複雑化と共に、此の勇膽無碍な青年政治家の個性が、普遍的な集合的な機關を作りて代られて行きます。そしてこの二つの要素

がどう云ふ風な消長を以て進んで行くかと云ふ事は、極めて興味ある問題であります。私は此の圖の説明文を紹介して此の稿を止め、更に之を誘因

として此の意味の小篇を草する機會を作りたいと思ひます。

## 書架より

紹介子

リズムの話 (Lee "Play in Education.")

### 韻と理性

幼稚園時期に於ける幼兒にあつては、その遊戲を行ふ場合は無論のこと、其他の殆んど如何なる場合に於ても、その動作は大抵リズム的である。尤もリズム的な遊戲といふものは、此の時期になつて始めて現れるものでなく、その以前とても、リズムの感覺は手足の運動又は發聲の最初の形式等によつて表現されるのである。此の時代の幼兒は唱歌、舞踏、詩歌等に分化せざる前の「所謂全

體のリズム」によつてその動作を支配されて居るのである。

凡そ韻と理性とはものを考へる二形式である。而して韻のみがひとり何にも伴はれずに現れる時これに應せんとする本能がリズムである。而して幼兒に於ては最初リズムのみが現れる。されば幼兒が無意味なアアアアを韻律的に繰返すのは、その内的世界の表現を試みて居るのである。故にこのアアアアといふ發聲に對しては矢張同じ様にアアアアと言つて答へてやるべきである。幼兒に對して故意に譯の分らぬことを